

## 「森林とセラピー犬」 アニマルセラピーが行われました!!

令和4年10月11日（火）、四王寺・ワンヘルスの森において、アニマルセラピーが行われました。

以下は、実施された「NPO 法人日本レスキュー協会」と「NPO 法人ことり」から情報提供がありましたので、会員の皆様にお知らせします。



### 「森林とセラピー犬（ハッピー）」

令和4年10月11日 ワンヘルスの森・四王寺/焼米ヶ原でアニマルセラピー野外モデルを行いました。

#### 「ハッピーに会いたい」 一歩踏み出す行動の後押し

発達障害を持つ子どもたちに見られる知覚や感覚のバランスのとりにくさは、さわりたいものに、さわれなかったり、行きたくても行けないなど、生活のさまざまな場面に影響しています。Aさんのそういう状態を知るサポートの先生が、四王寺の森でセラピー犬とふれあうアニマルセラピー野外モデル（9月25日）への参加を呼びかけました。この日の呼びかけが Aさんの外出のきっかけになったことや、初対面のセラピー犬たちに指先で何度も触れようとしていた姿から、野外モデルの潜在的な価値が示唆され、再度、Aさんとセラピー犬のハッピーが触れ合う機会を設けました。

#### 「森において、セラピー犬ハッピーが待っているよ」

睡眠リズムの取りにくさから、いつもは活動しにくいと聞いていた朝の時間帯、「ハッピーちゃんに会いに行こう」とお母さんが誘うと、身支度をしてくれたAさん。「ハッピーに会いたい」気持ちが、逡巡する身体と折り合って、一歩踏み出せたのかも知れません。焼米ヶ原で約1時間のふれあい活動を実施しました。



まずハッピーの名札を首にかけてもらい、焼米ヶ原の土塁を散歩。戻る時にはリードを持ってもらいました。戻って、水やりやブラッシングをすると、Aさんは、少しずつハッピーの体に触れ始め、やがて両方の掌をハッピーの腰にしばらく当て、温もりを感じているかのように穏やかに微笑む姿もありました。

「こんなに喜ぶとは思いませんでした。」 お母さんがハンドラーさんに話してくれました。五感に働きかける寛容な自然の森でのセラピー犬との触れ合いは、アニマルセラピーの可能性をさらに感じさせるものでした。

### ワンヘルスの観点からの考察と課題

- ・「森林」と「セラピー犬」が、人々の心身に与える良い影響について
- ・「森でセラピー犬が待つ」というこのような機会を、外出に困難さを感じている方々に提供できる仕組みについて

※ アニマルセラピー野外モデルは、福岡県の障がい福祉課や林業振興課と共同して、ワンヘルスの推進の一環として、取り組んでいます。

認定NPO法人日本レスキュー協会：NPO法人ことり

~~~~~

2022年10月18日  
福岡ワンヘルス協議会・事務局